

# 連合 徳島



JTUC-TOKUSHIMA

NO.226 (2010年8月11日)

発行人・小松義明 編集人・齋藤英司

日本労働組合総連合会徳島県連合会

〒770-0942 徳島市昭和三丁3丁目35-1

徳島県労働福祉会館6F

088-655-4105 Fax 088-655-4113

E-MAIL [info@tokushima.jtuc-rengo.jp](mailto:info@tokushima.jtuc-rengo.jp)

すべての働く者の連帯で、希望と安心の社会を築こう

8月17日(火) 第21期部落解放・人権講座 10時(県職員会館)  
女性委員会雇用均等室長意見交換会 15時

19日(木) 第9回五役会議 10時  
第8回執行委員会・地協・地区協代表者合同会議  
13時30分(労館502号)  
第8次訪中団事前研修会・壮行会

当面の  
日程

## 平和の折り鶴7万羽を長崎へ!



連合徳島の平和運動として「戦争を否定し、平和を創造する役割を果たせるのは私たちなのだ」ということを自覚し、平和をつくることの証しとして、「徳島大空襲の取り組み」「平和の折り鶴」県民運動に今年も5月から取り組みを進めてきた。そして、各構成組織・地協・小学校等で「平和への願いをこめて」一羽一羽折った平和の折り鶴70,000羽(過去最高)は、代表団40人(内子供12人)が長崎の原爆慰霊碑等に献げるとともに「2010 平和行動 in 長崎」(8/7~10)に参加した。

代表団は、8月7日午後8時に徳島を貸切バスで出発し、8日9時30分から1時間、長崎市平和公園での「ピースウォーク」に参加した。

ピースウォークは連合長崎の青年・女性委員会のメンバーがピースガイドとして被爆者からの聞き取りや現地調査など事前研修を積み重ねて実施したもので、参加者は原爆落下中心碑や浦上天主堂遺壁、被爆当時の地層、平和の泉、長崎の鐘、平和祈念像などをめぐり、詳しく説明を受けた。

続いて、長崎原爆資料館を見学し、65年前の原爆によって一瞬にして74,000人の尊い命が奪い去れた当時の写真や映像、炭化した衣類や遺品等を見て、改めて核兵器廃絶と世界の恒久平和への思いを強くした。その後、14時から原爆資料館大ホールで開催された「平和シンポジウム in 長崎」(連合・原水禁・核禁会議主催)に参加。2010年NPT再検討会議の検証および核兵器廃絶へ向けた更なる取り組みについて、外務省、大学教授、核禁会議、民主党の代表者から問題提起と取り組み、訴えが行われた。

「長崎原爆の日」の9日は、9時30分から徳島から持参した折り鶴(70の千羽鶴)に参加者それぞれのメッセージを書き込み、原爆落下中心碑に折り鶴を献じた後、10時40分から長崎市平和祈念公園での「原爆犠牲者慰霊式典」(長

崎市主催)に参加した。会場に向かうバスの中では、県退教・福井さんの指導のもと「原爆を許すまじ」を全員で合唱した。原爆が投下された11時02分には、亡くなった人への冥福を祈り、永遠の世界平和と二度と戦争の悲劇を繰り返さないことを決意して全員で黙祷した。また、長崎市長は平和宣言で、核保有国の指導者に対し、「『核兵器のない世界』への努力を踏みにじらないでください」と訴えた。また、5日に長崎を初めて訪れたパンギムン国連事務総長がすべての国に交渉開始を呼びかけている「核兵器禁止条約」について「私たち被爆地も強く支持する」と表明。そして、私たちには子供たちのために、核兵器に脅かされることのない未来をつくりだしていく責任がある。一人一人は弱い小さな存在であっても、手を取り合うことにより、政府を動かす、新しい歴史をつくる力になれる。私たちの意思を明確に政府に伝えて行こう、と訴えた。また、「平和の誓い」を述べた被爆者代表は「日本は核の傘から完全に離脱し、非核三原則を法律として確立し、遵守することが必要だ」と訴えられた。午後からは、グラバー園を見学し、福岡・博多へ移動した。

最終日の10日は、朝から「門司港レトロ」「下関唐戸市場」を見学し、一路徳島まで。「戦争

の悲惨さや平和の大切さを改めて認識するとともに、それぞれの職場や地域で平和運動を一層強化していく」ことを参加者全員で確認し、今回の平和行動 in 長崎を無事終了した。猛暑の中、参加された皆さん大変ご苦労様でした。

